



地域の ほっ♥と話



～生活支援コーディネーターより～

地域
ささえあい
推進員

令和4年10月22日（土）に、泉市民館まつりに参加しました。

地域の方に、認知症という病気の支援に関心を持っていただくため、泉地区民生児童委員10名、社協認知症地域支援推進員、生活支援コーディネーターで、「認知症の方に対する声掛け」について、寸劇を交えて発表をしました。市民館まつりの中で民生児童委員と社協職員で発表をするのは初めてのことでしたが、民生児童委員の力強い協力で無事に行えました。



高齢になっても住み慣れた地域で暮らし続けるためには、地域の中で自然に声がかけあえる関係を増やしていくことが大切です。



全員でラジオ体操

劇の最後に全員で田原版ラジオ体操を行い、館内が一体感に包まれた雰囲気の中で、ほっ♥と温かい気持ちになりました。



堀切地区で認知症サポーター養成講座を開催しました

堀切地区では令和4年4月にコミュニティ会長、民生児童委員、自治会役員等関係者、警察関係者、社協高齢者支援センター、生活支援コーディネーターで集まり、高齢者や心配な方の地域の見守り方について意見交換を行いました。その中で「認知症の方の行方不明を未然に防ぐために、多くの住民が自然な見守りを意識できるようにすると良い」という話がありました。

そこで令和4年9月30日に堀切市民館で「認知症という病気を知り、認知症を理解する人を増やす」ことを目的に、認知症サポーター養成講座を開催しました。25名が参加され、講座後の意見交換では、認知症家族介護者の気持ちも語られました。

参加者からは「多くの人に知ってもらうことが大事」「次回も参加したい」「接し方を知って良かった」という声があり、自分にできることを考えるきっかけになった様子でした。

今後も、定期的に地域の意見交換ができる場が増えると良いと感じました。

